

カンガルーシップ活動 共生プロジェクト 実施報告書

報告日	平成 27 年 3 月 6 日
主管学校名	宮城教育大学附属幼稚園
P T A 会長名	塩谷 昭子

実施概要	主管校	宮城教育大学附属幼稚園
	交流校	宮城教育大学附属特別支援学校
	実施活動名	宮城教育大学附属特別支援生と園児の交流会
	実施日時	平成 27 年 2 月 26 日
	実施場所	宮城教育大学附属幼稚園
	実施目的	特別支援学校との交流活動を通して、特別支援学校への理解を深める。
	実施内容	12 月に特別支援生に依頼した卒園記念品の贈呈と交流。
	実施方法	特別支援学校高等部生徒が記念品を作成し贈呈する。その後、レクリエーションなどで触れ合う。
	参加人数	宮城教育大学附属幼稚園年長児 58 名、特別支援学校高等部 25 名

報告事項	内容	12 月に卒園記念品の制作を依頼し、2 月 26 日に受け渡しの交流会を実施しました。高等部の生徒と園児が対面する形で座り、園児代表の交流会開会の挨拶の後、高等部生徒の司会進行により電子黒板を利用してのスライド「うさぎ、くま、きつねができるまで」を視聴しました。記念品ができるまでの工程や、工夫した点など説明してもらいました。その後、お互いグループごとに座り一人一人記念品の受け渡しが行われました。それぞれ袋を開け作品を見ながら、触れてみたり会話のやり取りなどをしました。最後に、感謝の気持ちを込めて園児が「あしたははれる」を合唱しました。受け渡し終了後は自由遊びで交流しました。
	結果	12 月に園児たちが特別支援学校を訪問した際に、希望の柄を伝えました。今回、その柄の時計を受け取り、大変喜んでいました。早速時計の針を合わせている園児もいました。高等部の生徒たちも注文を受けた作業作品を納品することで、成就感と達成感を味わっているようでした。全員が受け取った後で、園児からお礼の言葉を伝え合唱をしました。生徒たちからも「木工班全員で、気持ちを込めて作りました。大切に使ってください」と伝えられました。その後、自由遊びでの交流になりました。園児たちの方から生徒に駆け寄り、手を引いて「一緒に遊ぼう」と声を掛け、なんの壁もなく仲良くなっていました。
	所感	子どもたちも高等部生徒に対し、同じ仲間であるという親近感と、ものづくりへの尊敬の気持ちを持ったようでした。また、生徒たちも園児たちのワクワクしながら時計を見る表情に、自分たちの作品が役立っているという喜びを肌で感じているようでした。障がいがあっても、社会の一員として強く楽しく生きていって欲しいという思いは、本人たちにとっても、社会にとっても大切な事だと思います。これからも、障がいの有る無しに関わらず、共に生きる大切さを知り、心を合わせる事の出来るような交流を続けていければと思います。また、今年度もカンガルーシップ活動助成金事業により実り多き有意義な活動と交流が出来ましたことを感謝致します。一年を通しての集大成とも言える交流会となりました。

添付書類	実施報告書掲載可
------	----------

カンガルーシップ活動 共生プロジェクト参加感想

提出日	平成27年3月6日	
学校名	宮城教育大学附属特別支援学校 宮城教育大学附属幼稚園	
学年	高等部 年長	氏名

生徒の声

- 時計を渡したとき喜んでもらってうれしかった。
- 「〇〇さん」と言って時計を渡したら、「ありがとうございます」と言われうれしかった。
- 時計がうれしかったのか、みんなニコニコ笑っていて元気をもらえた。
- 危ない機械もあり作るのは大変だったけどやってよかった。
- 子どもたちが喜んでくれて超うれしかった。
- 納品の担当が2回目だったけど、昨年行けなかったので今年行って渡せたのでよかった。
- 納品が終わった後、一緒に遊んだことも楽しかった。
- 園児たちと一緒にダンスをしました。私は先生みたいに踊りました。最高でした。

園児の声

- 可愛い、嬉しかった。
- 時計をもらって嬉しかった。
- 時計の作り方を教えてほしい。
- こんなのを作れるなんてすごい。
- 一緒にダンスを踊ってくれ有難う。
- 一緒にコマ回しをできて楽しかった。
- たくさんお兄さんとお姉さんが遊びに来てくれて楽しかった。
- また来てほしい。



ご対面



受け渡し



電子黒板で説明



感激する園児たち



受け取り開封



卒園記念品時計



全員でお礼の合唱

カンガルーシップ活動

共生プロジェクト参加感想

提出日	平成27年3月6日
学校名	宮城教育大学附属幼稚園
氏名	

- 初めてこの会を見学し、改めて特別支援の先生方の見守りや導きはすごいと思いました。穏やかに生徒たちを見守る姿は、私たち親が子供に接するときも参考にさせていただきたいとぜひ思いました。この受け渡しでも、ひとつひとつの工程を大事に進められているなと思いました。大切に作られた手作り品が、園児の手に渡るとき、送る側と送られる側が優しさでつながったような、そんな瞬間に感じられました。また、ゲームやパソコンの画面上の遊びではなく、顔を合わせ、身体を使ってコミュニケーションをとりながら遊ぶ事は本当に大事なことだとも思いました。障がいのあるなしにかかわらず、子ども、先生、保護者が、共に連携して生きていくことの大切さを学んだ貴重な時間でした。最後に、我が家の3年生と1年生の上の子は、卒園記念品で頂いたコップとお皿、ハートの形の小皿を家で愛用しています。日常生活の中にとけこみ、時折このプレゼントにまつわる話題が出る時もあります。附属幼稚園マークが付いた特別な品物からは、未永く物を大事にするということも学べているのではないかと思います。今回の時計も、思い出の品として、家庭の中で存在感を放っていくのではないのでしょうか。
- 今回初めて特別支援学校との交流会に参加させていただきました。とても和やかな雰囲気の中で始まった交流会でした。初めは少し緊張したような面持ちでしたがお互いの顔がよく見えるように向かい合って座り、お兄さんお姉さんが電子黒板を使って子どもたちへのプレゼントである時計の「うさぎ、くま、きつねができるまで」が始まると、みんなとても真剣に、時折り「へえ〜」「おお〜」と興味深そうに見入っていたのが印象的でした。スライドでは工程がとても丁寧に説明されていて、園児にもわかりやすいように文字はひらがなで書かれ、可愛い挿絵などで工夫されていたのが感動しました。お兄さんお姉さんがどんなに心を込めて作ってくださったかがしっかり伝わったことだと思います。そして、子どもたち一人一人がとても嬉しそうに愛おしそうにプレゼントを受け取っている表情を見ると、直接手渡しされることの重要性を強く感じました。これは既製品のプレゼントでは絶対に経験できないかけがえのない心の宝物になったことだと思います。子どもたちがお礼の気持ちを乗せて歌った「あしたははれる」の歌はきっとお兄さんお姉さん達の心に響く歌声であったろうと思います。会の最後では子どもたちとお兄さんお姉さんが一緒にコマ回しやダンスをして遊びました。年齢など関係なくみんながキラキラした笑顔で自然に触れ合う姿を見てとても感動し、涙が出ました。このような素晴らしい経験ができる心の交流会はとても有意義であり、今後も是非継続していただきたいですし、もっと多くの保護者の方とも共有したい行事の一つであると思いました。今回参加させていただきました事を深く感謝いたします。ありがとうございました。
- 特別支援学校の生徒さんと子どもたちの交流の場に、保護者として見学させて頂き大変感動し、心温まる貴重なひとときを過ごさせていただきました。高等部木工班のお兄さん、お姉さんが幼稚園の子どもたちのために時計を作ってくださいました。時計の制作過程を写真付きで子どもたちが分かりやすいよう、ゆっくりと丁寧に説明して下さる姿を子どもたちは和やかな雰囲気の中で真剣に聞いておりました。くまさん、きつねさん、うさぎさんがにっこり微笑んだ58個の時計がお兄さんお姉さんから子どもたちの手元に届いた時、わーっ！かわいい！ありがとう！と生徒さんと子どもたちに笑顔の花が咲きました。子どもたちは喜びを噛み締めながら心をついに「あしたははれる」を合唱しました。今回、交流会の見学を通して感じたことがあります。同じ附属校園として子どもたち同士が交流する場を作ってくださいましたこの経験により、お互いを分かり合いたい気持ちと分かり合おうとする行動が生まれるのだということを感じました。この事が今後の子どもたちの成長において豊かな経験となり、人を思いやりそして自分を大切に思う優しい心を育て、また未来へと繋げていくことは非常に大事なことなのだと思います。特別支援学校の生徒さんに、子どもたちが遊んでもらっている姿を見て、親として広い視野をもち、のびのび、生き生きと子どもたちが遊ぶことができる環境を作ってあげること、それが子育ての原点と再認識することができました。これからも温かい眼差しで子どもたちを見守り、共に楽しみながら成長していきたいと思えます。長女がいただいた時計を、居間に飾っております。にっこり優しいお顔をしたらうさぎさんの時計を眺めるたびに心がほっこり温かくなります。宝物です。特別支援学校の先生方、高等部の生徒の皆さん、附属幼稚園の先生方、子どもたちへ感謝申し上げます。どうもありがとうございました。